



Journal of Biochemistry ランチオンワークショップ

日 時:12月3日(木) 12:45~13:45

会 場:第5会場(神戸ポートピアホテル 本館 地下1階 和楽)

主 催:日本生化学会 JB 編集委員会

【プログラム】

留学から帰国、PIへ、そして日本からの論文

東原 和成(東京大学大学院農学生命科学研究科/ERATO東原化学感覚シグナルプロジェクト)

サイエンスでいい仕事をするためのキーワードなんでしょう。私はQuestion、Approach、Logic、Colorの4つだと思います。自分の研究環境を見て、今できることは何かというquestionではなく、何が現在その領域で本質的なquestionなのかというスタンスでテーマ設定をすることです。また、自分たちが持っている技術で何ができるか、最先端の技術をつかってやれることはなにかという考え方ではなくて、自分のたてたquestionに対してベストのapproachは何かと考えて、その技術をもっていなければ、自分で立ち上げることです。それから、私が留学して感じたことは、日本人はlogicの作り方が弱いということです。それは英語力ではなくて国語力です。自然の摂理はlogicです。最後に、独立したとき、ポスドクの仕事を引きずらずに、自分のcolorのある研究を立ち上げようと思うことです。私は帰国後、日本から日本人魂が入った仕事を世界に発信しようと決意してやっています。そして、LogicとColorのある論文は芸術作品のように美しいものです。私がアメリカ大学院留学を通して学んだこと、そして独立研究者として日本から世界に通用する研究成果を発信するために私なりに考えていることをお話ししたいと思います。